



エス！エス！エスディージーズ

SDGs

問 / 市長戦略課 SDGs 推進室 (☎ 58-2220 FAX 58-2291)

SDGs の理解を深め、地域と行政が連携し行動する仕組みづくりスタート ～第1回のみSDGs円卓会議を開催～

7月21日、辰口福祉会館交流ホールで「第1回のみSDGs円卓会議」を開催しました。のみSDGs円卓会議は、行政と地域が連携し、SDGsの視点で地域の課題を解決するまちづくりの推進について、様々な立場の人を交えて議論する場です。

第1回は今年度、取り組む3つのテーマについて意見交換を行いました。会議の冒頭で、井出市長は「日本一、SDGsに市民が参加するまちとしたい」と挨拶しました。



円卓会議の様子

●能美市SDGsの取り組み

能美市は昨年度、SDGs未来都市に選定されました。SDGs未来都市計画の中で、能美市が2030年にありたい姿として掲げたのが「暮らしやすさを日本一、実感できるまち」です。この実現のために次の3点を目指していきます。

＜市民力・地域力で自立したまち＞

＜地域経済が好循環し、地域コミュニティが活発なまち＞

＜魅力ある「能美ブランド※」を発信するまち＞

※能美ブランド…モノだけではなく、モノを生み出す地域の人も含めた魅力や、能美市でしか体験できないコトの魅力などすべて

●今年度の取り組みテーマ

- ①「情報発信」「相談窓口」…SDGsを身近に感じてもらえるように、様々な情報が詰まったホームページ、SDGsの取り組み方を相談できる窓口の設置に向けた制度設計
- ②「パートナーシップ制度」…市民団体や企業などがSDGsパートナーとなって様々な地域活動を行えるような制度の構築
- ③「のみ指標」…SDGsの達成を測るものさしとして能美市独自の指標づくり

円卓会議での主な意見

①情報発信・相談窓口

- ・SDGsを身近に感じられる工夫があると良い
- ・自分が「できていること」と「これからしたいこと」を把握できる仕組みがほしい
- ・ホームページだけではなく対面の窓口や、地域に直接出向く出張相談窓口や出張講座なども必要

②パートナーシップ制度

- ・企業と市民がダイレクトに交流できる仕組みづくりをしたい
- ・「学校」というフィールドを借りて、企業と子どもがともに学習したり、プロジェクトをつくるような企画が生まれると良い
- ・能美市版のSDGs認証制度があるとわかりやすいのではないかな

③のみ指標

- ・「共助」のまちづくりに向けて、数字では測れない市民の価値観、心の豊かさを測るものにしたい
- ・市民の声を直接聞いて反映し、独自性があるものにしたい
- ・市民にどのようにしたら、納得感を得てもらえるか検討する必要がある



意見をまとめた模造紙

今後、のみSDGs円卓会議メンバーがテーマごとに分かれ、専門知識のある人などをさらに交え、取り組みテーマの具現化を図る「専門分科会」、SDGsを広く市民へ普及し理解するきっかけとする「市民ワークショップ」を開催していく予定です。